

式辞（広島キャンパス 2013）

卒業生・修了生の皆様、おめでとうございます。ご家族と関係者の皆様方、お祝い申し上げます。

ご来賓の方々におかれましては、ご多忙のなか、本学の式典にわざわざご光臨賜り感謝いたしております。そして、この場をお借りしまして、本学関係者とともに、いつも変わらぬご支援に厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

< 卒業生・修了生の皆さま、お座りください。 >

皆様は、県立広島大学をご卒業になるのですが、そのことは大いに誇りにしていただきたいと存じます。本学は三つの県立大学を再編統合して8年前に再スタートしましたが、第一にその三つの大学は大変優れた歴史をもっています。第二に、統合後の大学は全国的に一流の大学になっているのです。

まず、本学前身の3大学ですが、庄原の広島県立大学は、1989年の創立時の入試でなんと競争率65.1倍だと朝日新聞が報じ、読売新聞は当時の文部省が日本で最高の倍率だとコメントしたと報道しており、優れた大学としてスタートしました。市中心部から大学までの道路は県大通りと名付けて下さり、街路樹として延々とこぶしを植えてくださって、春先には白い花が美しく咲きます。それほど地元から大事にされているのです。もう一つの三原の大学は1995年の開学ですが、リハビリテーション関係の大学として日本の草分けの一つであり、アメリカに治療に行くと、それなら広島に優れた先生がおられる、そちらにいけばと言われたという話があるほどの大学でした。

さて、ここ広島キャンパスは、その濫觴は、1920年に広島高等女学校に設立された専攻科で、これから数えますと実に94年の歴史となります。広島女子専門学校となりましたのは1928年のことですが、これは全国で5番目の女子専門学校でした。当時、女性の高等教育機関は、お茶の水と奈良の女子大と女専しかありませんから、全国からだけではなく韓国台湾中国からも才媛が集まりました。広島女専で学ぶことの誇り高さは、井上ひさし原作、黒木和雄監督、宮沢りえ、原田芳雄出演の映画「父と暮らせば」をご覧になればよくわかります。宮沢りえ演ずる福吉美津江は広島女専卒業となっており、女専学生の時昔話研究会を親友と作り、そこで採録した話を子どもに話そうとするのですが、そのとき、子供に受けるように話をアレンジしてはどうかという父竹造に、「はなしをいじっちゃいけない！前の世代が語ってくれた話をあとの世代にそっくりそのまま忠実に伝える、これがうちら広島女専の昔話研究会なんじゃけえ。あきこさんとそうきめたんじゃ。」と映画では、ここで胸を張ります。文化の作り方、伝え方は、我々が決めるんだ。広島女専の学生は一級の高等教育機関で学ぶ者なんだ、文化・学問を造り出すインテリゲンチャーなんだという誇りがここには見事に現れています。広島女専の学生は、まっすぐ前をむき、背筋をのばし、しっかりと歩いたといいますが、映画の宮沢りえは、そういう女専歩きをしています。人間文化学部の皆様も経営情報学部も大学院の皆様もそういう先輩が学んだキャンパスで学生生活を送られたのです。

それだけではありません。このキャンパスは知的で気品があり美しいですが、その伝統

は広島女専、女子短大、女子大という歴史のなかで造られてきたのです。本学同窓会は統合前は「紫水会」と言う名称でした。私が、本学にくる前、ホームページをみますとそれは優美で気品があり知的でした。本学にきて4月再訪を試みますとすっぱりと撤収されていました。新大学になったのだからと、すかっと消去なされたのです。見事な城の明け渡しを見る思いがしました。その上、ずーっと、誇りにしてきた大事な大事な思いのつまった「紫水会」の名を、三大学統合にあたって、これも明け渡してくださったのです。こういう大きな思いやりが、広島女専から育くんでこられた方々の大きさです。

私たちは、こうした広島女専以来の伝統に、庄原、三原の新しいすばらしい大学を加えて、新県立広島大学として8年の時を刻みました。その空気をたっぷり吸って皆様は本学で育ち、ご卒業なさるのです。その幸せをしっかりと胸に刻んでいただきたいと存じます。

幸せなことの第2は、皆さまは、研究力の高い大学でレベルの高い高等教育を受けたことです。大学の研究力を示すよい指標とされるもののひとつに科学研究費補助金の採択件数があります。これは科研と略称されますが、この採択件数を大学間で比較しますと、中四国九州沖縄の全部で25の公立大学のなかで本学は最近5年連続トップなのです。国立大学は、本学と比べて規模が圧倒的に大きく、主要国立大学は、我々の7倍から10数倍の巨大規模で、そのままでは比較は意味を持ちませんから、各大学が年間につかう総費用で割ってみますと、平成24年度4月の公表のものでは、総経常費用1億円当たりの科研費採択件数は東大と九大が1.67で本学の1.63とあまり差がありません。国立の総合大学は中国地方で5校、四国で4校ありますが、そのなかで1番高いのは広大で1.56、一番低いのは0.75です。もちろん、国立総合大学の研究と公立大学の研究には違いがありますから、この数字を重視しすぎるのはどうかと考えますが、しかし、大学を運営するのに使っているお金で科研採択件数を比較しますと、本学は全国で一流の大学ということになります。

この研究力の高い大学で皆様は教育を受けたのです。しかも、近年では多くの大学で卒業論文なしで卒業認定していますが、本学では、全学生が卒論を書いて卒業します。卒論では、科学研究の正しい方法にもとづいて、課題を学生がみつけ、文献渉猟し、論証か実証をし、創造的に結論を導き、文章にまとめ、吟味し、公開の場で発表します。したがって、本学の学生は、新しい知をつくり出す科学的方法を身につけて卒業するのです。世の中には論文らしき物を書き、それなりに人気を集めた例は少なくないのですが、そういうアマチュア研究ではなく、科学的方法をきちんと学ばれたのですから、皆さまは、卒論をどのように仕上げたかをしっかり思い出していただければ、ご自分で、正しい方法で、新しい課題をみつけ、それを解決していくことがこれからもできるのです。ですから、自信をもって社会でご活躍いただけます。

このような大学で、上のような教育を受けて、ご卒業になるのです。皆様本当におめでとうございます。また、幼いころから本日の卒業生を大事にお育ていただいたご家族や関係者の皆様、重ねてここで、ここからお祝い申し上げます。

さて、今日ご卒業なさる皆様への饒の言葉として、第一に卒業後もしっかりと勉学に努めること、第二に、皆さまの住む土地、働く組織、接する人々の良い点を見つける努力をすることの二つをお贈りします。

第一に、勉学こそ力です。伊勢大輔の「いにしへの奈良の都の八重桜けふ九重ににほひぬるかな」という歌はよくご存じでしょう。平安王朝華やかなころ、奈良の興福寺から見事な八重桜が京都の御殿にとどけられます。その桜の取り次ぎ役は毎年の中宮彰子のお局の紫式部がつとめていました。しかし、ある年、伊勢大輔が同じ局に出仕してきました。この方は伊勢神宮の神官の歌詠みの家のお嬢様です。そこで、紫式部は、八重桜の先導役を伊勢大輔に任せました。いわば新入社員の抜擢です。

さて、当日。八重桜を興福寺が届けてきました。その僧侶を伊勢大輔が先導してきますと、天皇皇后は御簾の内におられ、その前に、藤原道長がおられます。そこまで参りますと、道長がさあと言います。そうなのです。献上を取り次ぐにあたって歌を詠みなさいということなのです。紫式部は歌が必要ですよとは教えてはくれなかったのです。和歌の家のお嬢様としては、いい歌を詠んでみせなければなりません。大変だわと思ったでしょうが、「いにしへの奈良の」と始めますと、きれいに続けました。

即興の歌ですが、「いにしへの奈良の都」で七、「八重桜」で八、「けふ九重」で九で、七・八・九と登り調子で、平安朝がめでたく栄えていくことを読み込んでみているのです。居並んでいた公達のやんやの賞賛を集めました。清少納言もいたことでしょう。見事に宮中にデビューをかざったのです。

とっさのときに、こういう見事な働きができますのは、日頃の勉学の成果です。皆さまも桜も見れば、この話を思い出して、実力を蓄えてください。突然その力が試されるときが人生で3回は来るとよく言われます。このときを捕まえないと幸福の神様はとおり過ぎていきます。チャンスは突然きます。どうかしっかり励んでください。日頃の勉学・研鑽こそ力です。

饒の言葉の第二ですが、皆様が、幸せに生きていくには、皆様が、住む土地、働く組織、接する人に暖かく受け入れられることが大事ですが、それには、それらのいい点、すばらしい点を見つけることが重要です。ある土地に住めばそのすばらしい点を地元の人以上に見つけるのです、接する人々について、その人のいい点を見つけることです。そうすれば、土地の人は、接する人は、こちらを受入れ、好きになってくれるでしょう。嫌な点、変だなと思うことがあれば、せめて数ヶ月は、なぜ、彼ら彼女らがそうしているのかを観察してみてください。その土地では、あるいはその組織ではそうするのが合理的であることがわかっていくことが多いものです。皆様方は、いい大学で、優れた先生から最新の理論を学んだのですから、相手のやり方は古いとか、劣っているとか思ってしまうかもしれませんが、そのときは、いきなり批判せず、まず数ヶ月は観察してください。そこでは、そうしたやり方が合理的であることが多いのです。そのことがわかる前にいきなり発言すると反発を買いますが、わかってからですと好い関係で話しあっていけることでしょう。まず、相手を理解し、その良い点を見つけることこれが私の皆様へ贈る言葉のふたつめのものです。

社会は皆様の活躍を待っています。ご卒業おめでとうございます。

平成25年3月22日

県立広島大学 学長 赤岡 功